

秋期BCLプログラム

「秋期日本語・日本事情プログラムおよび日本理解プログラム(BCLプログラム)」は、24人の短期留学生が参加して展開中だ(12月17日まで12週間コース)。BCLプログラムは、国際交流協定校の米国のネブラスカ、オレゴン両大学、アイルランドのダブリン大学、カナダのマウントアリソン大学などからの留学生18人が、日本語学習のほか日本のビジネス、文化・歴史を学んでいる。留学生は授業やスポーツを通じ、専大生や教員と交流、日本語の上達とともに、国際交流を実践している。

即英語に翻訳

ネブラスカ大の留学生
ベンジャミン・ノートンさん



▲ベンジャミン・ノートンさん

「Beautiful flowers I send in such a manner To all the victims」

この英語による俳句は、同プログラムで「日本のビジネス」を担当している上田和勇商学部教授の俳句「この桜 そのま届け 被災地に」を、ネブラスカ大学のベンジャミン・ノートンさんが訳したものだ。授業中に俳句を詠み上げ「だれか英訳を」と問いかけたところ、ベンジャミンさんが手を挙げ、すぐに英語にした。



▲企業見学をする上田教授とBCL受講者

身で、俳句が趣味。同教授が「ベンジャミンの素早さと日本語理解力は見事」と大感激した。ほかの作品11句もベンジャミンさんに託したところ、一晩で英訳してきてくれた。上田先生の「祖父母の友人に日本人がいたので、子どもの頃から日本語が身近だった」と言うベンジャミン



▲ヴィンセントさん(86)と4年次の松井徹さん(35)

アメフットの練習に参加 カナダとアイルランドの留学生

昨年、国際交流協定校流した。ウィンセントがとなったマウントアリソン大学から初めて同プログラムに参加したウィンセント・ルクレールさんとダブリン大学のディビッド・ケーンさんは、アメリカンフットボール部の練習に参加した。二人とも日本語は初級クラスだが、同部の特別な計らいで実現。10月に2回、練習に参加し、部員たちと汗を流した。

同プログラムでは、最上級のJ4クラス。ネブラスカ大では国際ビジネスを専門に学んでいる。「食い倒れ」の大阪が大好きとか。将来は日本で仕事をしたいと夢を膨らませる。

キャリアデザインセンター「課題解決型インターンシップ」

「食」で地域活性化へ 経済学部 徳田ゼミ

経済学部の徳田賢二ゼミ、商学部の生田目崇ゼミは、キャリアデザインセンターの「課題解決型インターンシップ」に参加し、NPO法人「しんゆり・芸術のまちづくり」とともに、新百合ヶ丘の活性化に取り組んだ。ゼミ生たちは10月8日から30日まで行われた「しんゆりオーリーブまつり2011」で、イベントの盛り上げに貢献した。



「しんゆりオーリーブまつり」経済・商の2ゼミが参加

徳田ゼミの2、3年フェス2011の企画26人は、「フード画・運営を行い、「食」を通じて地域活性化を目指し、パンや和・洋菓子など21品のオリジナルメニューを地元12店舗の協力で開発。完成した商品は試食会(10月1日、昭和音月1日、昭和音日、新ゆりアートパー「しんゆりエコアート」)と話し

「エコ」と「芸術」の融合 商学部 生田目ゼミ

生田目ゼミの7人クラス内で開催された「アート市」に参加。おうちで考えた商品など、勉強になりました。おうちで考えた商品など、勉強になりました。おうちで考えた商品など、勉強になりました。

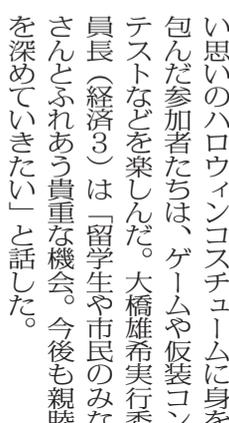
「やさいい英語による経済学講座」
S・リム教授講師に
第149回国際交流特別講演会「やさしい英語による経済学講座」が10月8日から11月12日まで全5回、生田目キャンパスで開催された。毎回約30人が聴講した。

講師は経済学部客員教授のステイファン・リム(ニユージーランド)。ワイカト大学教授「写真(ニユージーランド)。震災後の日本の経済、環境、経済連携協定(TPP)など、経済の現状について多方面から語った。

留学生と日本人学生の交流バスハイイク
富士山五合目散策
とブドウ狩り
留学生交流バスハイイクが10月9日に行われ、40人(留学生20人、日本人学生20人)が参加して富士山五合目散策とブドウ狩りを楽しんだ。バスの中では、留学生と日本人学生の交流が進み、和士山五合目散策とブドウ狩りを楽しんだ。

プレ・ハロウィンパーティーを開催

国際交流会SHIPと川崎市多摩区市民団体「世界のひろば」共催によるプレ・ハロウィンパーティーが10月8日、生田目キャンパスで開かれた。学生、留学生、市民約80人が参加。思い思いのハロウィンコスチュームに身を包んだ参加者たちは、ゲームや仮装コンテストなどを楽しんだ。大橋雄希実行委員長(経済3)は「留学生や市民のみなさんとふれあう貴重な機会。今後も親睦を深めていきたい」と話した。



▲ハロウィンコスチュームに身を包んだ参加者たち

外国語のススメ LL研究室 -●2●- 日本語

外国人留学生試験を経て入学してきた「留学生」が、興味を持つものはいろいろあります。例えば、日本語を学ぶきっかけともなることが多いアニメ、あるいは、日本のファッション、Jポップ、それにゲーム。けれども、日本で生活を始めてから、次第に興味を持つことの一つに、和服があります。夏は浴衣で花火を見に行くというのが、定番の着物入門ですが、だんだんと普通の着物、それから卒業式に着る晴れ着である振袖や訪問着に興味を持ち、和服をあつらえる留学生も少なくありません。そうしたこともあり、留学生を対象



▲着物の着付け講習会で王教授と(右端)と留学生

「留学生」は和服がお好き?!
とした和服の着付け講習会を開いたりしています。先生にも来ていただき、着付けを習い、帯まで結べるように練習しています。その様子を、留学生たちはスマートフォンで写真に撮り、その場で日本語版や中国語版のSNSにアップしています。とりえず、女子だけの講習会ですが、実は男子留学生も着物には興味を持っているようで、ひそかに(?)着物を買い、自分の部屋で来て楽しんでいるというカミングアウトも…。今年も夏が終わり、袷(あわせ)の時期になりました。また、着付け講習会を始めます! ※全文はLL研究室ホームページをご覧ください。